

すれ違いの見物者

岡本 悠

たかる、は、腕前を上げた

男は、そんなに、怖くない

ユーフラテスの河川敷で

乞食がシーソーを動かしていた

いぶかしげに、それを眺めていたが

尚のこと、さざんかでもくれてやろうと

足早にその場を去った

愉快的誘拐犯が捕まったその日

たかる、は、歯医者へと向かった

担当は、美人で胸の大きな女

今時の顔をしていた

たかる、にとつての、重大問題は

その女医師が、医師免許に合格したかどうか、ではなく

その女医師も、神の創造物であるかという

確認だけだった

たかる、は、治療を受けながら

何度も確認した

これは、神の創造物にすぎない

よって、たいしたことはないのだと

そう思い込もうとした

神は笑った

そんなに力むなよと

バーの前は慌ただしかった

もう行くことのないバーには

いつものように

薄暗い車が置かれていた

雨が降っていた

たかる、にとって

女医師の胸の感触など

どうでもよかった

そんなことはもう慣れっ子だし

とっくに卒業した

たかる、は思った

あのテレビのキツネガールよりも

フジテレビアナウンサーの女性のほうが

断然、綺麗だなと

その時も、神の創造だが...

と、思い込もうとした

治療を終えて、待合室にいる時

女医師の

ぶっきらぼうな、

診断書を投げた姿が

気に食わなかった

でも、その女医師ではない可能性もあった

たかる、は、かえってこうして歯医者でも

忙しいほうが充実してるな

と、思ったが

それでは、答えには遠いじゃないかと

いぶかしがった

サタンが窓を開ける頃

たかるも、窓を開けて

洗濯物を、取りこんだ

神は昨日、予告した

明日から、男も見ていくぞ、と

しかし、たかる、が、神経質になっていたの

と、りやめる、と、言っていた

命を差し違える覚悟の、たかる、の、真面目さを

神はいなした

たかるも、覚悟が宿っていたし

それ以前に、ある程度は大丈夫だろうと

腹をくくっていた

幸せの論文が完成する前

サタンの不敵な笑い声が聴こえた

たかる、は言った

神、サタンのことは、大丈夫か？

神は、心配いらないと

言い切った

たかる、は

創造物たちが、自分の噂をしているかもしれない、ということを考える自分に、矛盾を感じた

それを神は、トリックと言った

たかさんの買い物をした、たかる、は

マコのレジに並び、買い物をした

たかる、は、また、マコも神の創造物だと

思い込もうとした

マコは珍しく笑顔を見せたが

たかる、に対して、緊張していた

ロッテルダムが、夕焼けに染まるころ

日本ハムのキツネの女たちが

一斉に、逃げていった

雨も激しさを増していた

幸せの論文において、何も糸口を見いだせないまま

それは、人生の意味においても

芯から得たものではないと思った

やっぱり、実感なのか？

でも、そんな一瞬のものじゃなくて

永続的なものが欲しい

神の言う

今が幸せには、納得がいかなかった

お金がある不幸せもあれば

乞食の幸せ者もいるのではないかと、感じた

そこが突破口かもしれない

たかる、は、考えた

でも、今から幸せになりたい

今から、未来永劫、幸せになりたい

それだけが、たかる、の夢だった

やはり、今は、幸せではないのだ

エルトン・ジョンのロング・ウェイ・フロム・ハピネスが流れていた

なぜ、神は安直に答えを提示しないのか？

たかる、の、謎はそれだけだった

スティングの、シェイプ・オブ・マイ・ハートが、続いた

永遠に生きられる薬ができるのか？

それもいいが、幸せでないのなら意味がない

神は、数年後にはなるよ、と言ったが

それでは、遅い、遅すぎるのだ



腑に落ちたのは

神が嘘をつくのも、全部、最後には、いい方向に向かう為だ

ということだった

巨人は、神との予言とは別に、負けた

アナーキーな女が歩いていた

たかる、は、あいみょん、みたいな、女がいればいいのに...と思った

心を痛めている俺を、癒してくれる女を探した

おっばい、が、大きければいいわけではなかったが

バス停では、あながち、胸の大きな女性に目がいった

俺の、すべての強がりもここまでだ、早く楽になりたい

死にたいわけではなかった...

あと数年というのが、いつなのか？ どういう意味なのか？ を知りたかった

幸せになりたい、たかる、は、神にすぎた

こうなると、神に、何を言っても無駄だと思った

待つしかないのか？

このままでは、俺は生きていけない

屍としてなら生きていけるが、もう辛い、辛すぎる

神よ、いいから、早く、安直に、答えをくれ！

たかる、は、ふて腐れた

たかる、は、心の中で「神は云った」という言葉を繰り返したが、

神は、何も言わなかった

このままでは、俺、苦しくて、死んでしまうよ

あながち嘘ではなかった

でも、死なないことも知っていた

街では、ヤクザな男たちが歩いていたが

そこに、目をやり、こちらを感づくタイミングで神は逸らした

これから、こうやって町では、忙しく生きていくのか

たかる、の心は、晴れないまま

交差点の信号を曲がる、初心者運転者の車を見つめていた

「完」